

評価WG委員等による研究拠点視察結果報告

日 時 : 令和3年10月18日(月) 13時30分～17時30分

場 所 : 東京国際クルーズターミナル(4F会議室)および、臨海副都心実証実験エリア

参加委員 : 現地(須藤統括、小豆畑委員、岡崎委員、白井委員、藤野委員、君嶋委員、五十嵐委員、岡崎委員、小向委員)、Web(竹中委員)他

(1)実施内容

東京臨海部実証実験の実験走行エリアを視察拠点とし、以下の重点課題を中心に研究の進捗と成果を報告すると共に、社会実装事例として、高精度三次元地図を採用した一般車両および、V2Iによる信号情報を車両制御に利用した実験車両への試乗を通じて、研究成果を確認。

【報告課題と報告者】

- ・東京臨海部実証実験 : 南方FOTリーダ
- ・仮想空間における安全性評価手法の構築 : 神奈川工科大学 井上教授
日本ユニシス 今村さま
- ・地理系データに係るアーキテクチャの構築 : NTTデータ 礒さま
- ・新たなサイバー攻撃手法と対策技術 : PwC奥山さま

【試乗車両】

- ・一般車両 : トヨタ(MIRAI)、ホンダ(レジェンド,L3)、日産(スカイライン)
- ・実験車両 : コンチネンタル、バレオ、Tier4



評価WG委員等による研究拠点視察結果報告

(2) 評価委員質疑内容

- 各課題の進捗および、社会実装に向けた取り組みについての報告に対する疑義点のご指摘は特に無し。
- 質問の多くは、報告内容をより深く理解するための内容であり、報告者やP Dからの適切な説明により、評価委員にもご理解の上、適切なアドバイス等も頂けた。

【東京臨海部実証実験】

- Q. 車線レベル情報の推定方法→ A. GPS等の位置情報による車両プローブ情報を統計処理により車線レベル情報を生成
- Q. V2N(携帯網)の信頼性→ A. 携帯網だけでなく車載カメラによる二重系で灯色を認識し信頼性を高めるが、最終判断は車載カメラ
- Q. コロナによる実証実験プログラムへの影響→ A. 実験中断はあったが、期間の延長と参加各社の尽力により予定通りの成果

【仮想空間における安全性評価手法の構築】

- Q. DIVPツールとOEM各社制御モデルの接続性→ A. 実現見込みであり、更に、出力結果を比較するためのリファレンスモデルも構築
- Q. センサ自身の進化への対応→ A. 空間モデル出力、センサ知覚出力等のインターフェースを設定し進化への拡張性を持たせている

【地理系データに係るアーキテクチャの構築】

- Q. 通信技術の進歩によるサービス再開発の必要性→ A. 通信技術に依存するサービスとは異なり、各社のクラウド上にあるデータを相互利用する仕組みを構築する

【新たなサイバー攻撃手法と対策技術】

- Q. 国際連携の進め方→ A. 現状は国内事業者と協力しているが、将来、通信機能の普及に伴い国際連携を更に推進する

【その他】

- Q. 地方部での社会実装の展開→ A. 先ずは社会課題の解決に向け、イニシャルコストの少ない方式で取組み、SIP終了後は官の施策等も活用しながら全国への展開を進める計画

(3) 須藤統括からのコメント

- ・自動運転は非常に競争の激しい領域だが、是非うまく競争領域と協調領域を切り分けながら進めていただきたい
- ・V2Nについては、まだ難しいかもしれないが、どこまでやるか、実証実験でどういことをやるのかを明確にしていただけるとよい
- ・DIVPは来年、事業化されるということで大きな成果だと思うが、現実の実証試験とシミュレーションをうまく組み合わせ、説明していただくと、社会的受容性の醸成にも繋がってくるんじゃないかと思うので、その辺を是非お願いします
- ・MD communetは、最適の配送ルートとか、観光者の最適ルート等、いろいろな発展性を持っているので、今後も是非検討していただきたい